

経営発達支援計画
令和8年度伴走型小規模事業者支援推進事業

施策支援要望調査 Report

～京丹後市版～

地域経済動向調査報告

(令和8年4月 ～ 令和8年6月)

京丹後市商工会

施策支援要望調査(中東情勢に伴う経営への影響) - 調査結果(一部抜粋)について -

令和8年8月1日

調査目的: 中東情勢に伴うエネルギー・原材料価格等の変動や、DX/AI活用の進展という経営環境の変化が、管内事業所の経営・労働環境に及ぼす影響について、「施策支援要望調査」を実施することで事業者との関わり頻度を増やすとともに実態および要望等を的確に把握し、効果的な施策提案等や支援機会の創出を目的として実施する。

調査対象: 京丹後市地域の当商工会員100事業所

調査方法: 当商工会経営支援員による巡回ヒアリング調査

Q1: 中東情勢による経営への影響について

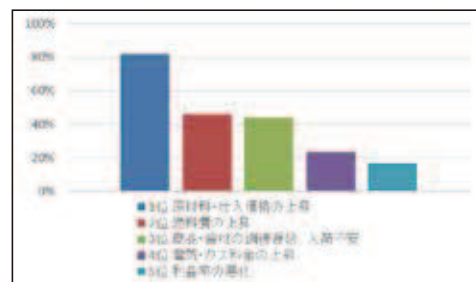
中東情勢による経営への影響については「大きな影響がある(深刻)」が28件、「やや影響がある」が61件、「現時点で影響はない」が9件、「わからない」が2件という回答を得た。

「影響がある」と回答した89件の内訳を業種別の調査数でみると、織物業のうち71%、機械金属業のうち86%、工業のうち100%、建設業のうち80%、商業のうち93%、観光業のうち100%、サービス業のうち93%であった。「影響はない」と回答した9件は、織物業3件、機械金属業2件、建設業3件、サービス業1件であった。特に接客を必要とする業種を中心に、中東情勢による経営への影響を感じている結果となった。



Q2: どのような影響を受けているかのトップ5 (※89件の比率で算出)

影響については「原材料・仕入価格の上昇」が82%でトップ、「燃料費の上昇」が46%、「商品・資材の調達遅延・入荷不安」が44%、「電気・ガス料金の上昇」が24%という回答を得た。第3位まではほぼすべての業種に影響しており、観光業・サービス業は電気・ガス料金の上昇の影響が特に大きく、商業は商品の価格上昇などによる利益率の悪化が顕著となっていることが伺える。自由回答では「お客様の購買意欲の低下」などのコメントがみられた。



Q3: コスト上昇分の価格転嫁の状況

価格転嫁の状況については「十分に価格転嫁できている」が14件、「一部価格転嫁できている」が47件、「あまり価格転嫁できていない」が20件、「価格転嫁できていない」が18件、「該当なし」が1件という回答を得た。「十分に価格転嫁できている」「一部価格転嫁できている」と回答した61件の内訳を業種別の調査数でみると、織物業のうち57%、機械金属業のうち50%、工業のうち79%、建設業のうち87%、商業のうち64%、観光業のうち64%、サービス業のうち27%であった。特にサービス業においては、消費者の生活と密接に関わる業種であり、コストに対する価格転嫁を容易に実行できない状況があることが伺える結果となった。

Q4: 現在実施している対応策のトップ5 (※100件の比率で算出)

対応策については「価格改定(値上げ)」が63%でトップ、「経費削減」が40%、「対応していない」が16%、「仕入先・調達先の見直し」「販路開拓・営業強化」がそれぞれ15%という回答を得た。その他にも、「省エネ・燃料費削減対策」という回答も一定数みられた。自由回答では、「一部生産調整などで対応」「織機の整備」「新商品開発」などのコメントがみられた。また「対応していない」と回答したうちの31%がサービス業であり、7業種のなかで最も割合が大きい。



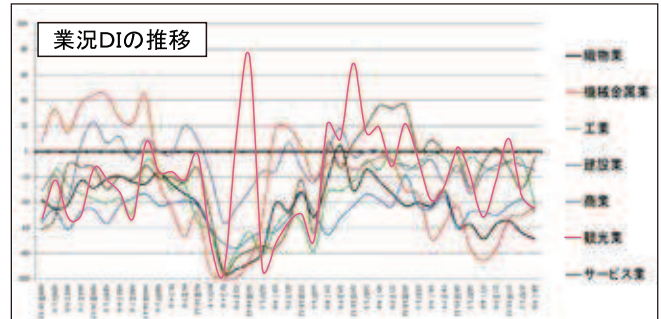
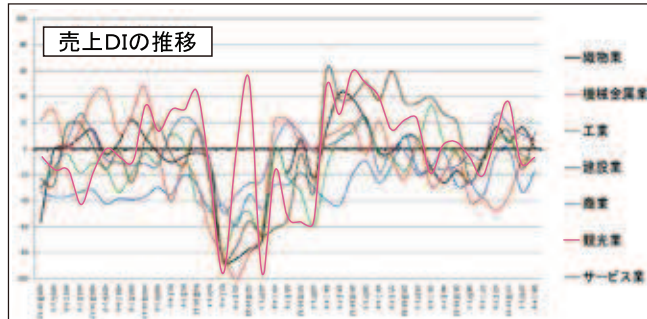
Q5: 今後期待する支援施策について(複数回答による集計)

今後期待する支援策については「補助金・助成金情報の提供」が70件と最も多く、次いで「補助金申請支援」が47件、「経営に関する情報提供」が13件、「資金繰り・融資相談」が12件、「販路開拓支援」が9件、「専門家相談(経営改善・価格転嫁等)」が6件、「今は特にない」が15件という回答を得た。自由回答では、「2027年エアコン問題に関する消費者向けの補助金創設」という具体的な記載もみられた。また「手の打ちようがない」といった経営に苦慮するコメントもあった。全体的には、補助金・助成金関連の情報提供を求められており、これに伴う申請支援についても要望が多いため、情報伝達を円滑に行う体制・仕組みを構築していく必要があることが伺える結果となった。

＜調査概要＞【調査対象】京丹後市地域の当商工会員100事業所 【調査期間】令和8年4月～6月

＜産業全体＞売上改善の動きが広がる一方、コスト上昇で採算悪化が続いている市内小規模事業者

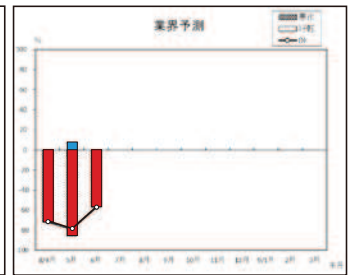
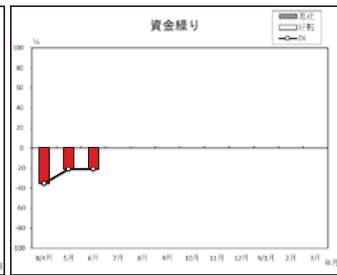
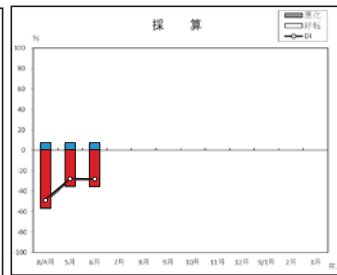
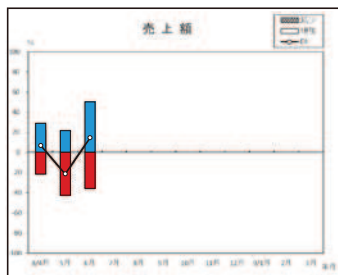
4月～6月の市内小規模事業者経済動向調査は、前四半期と比較した平均売上DIは、観光業が+5ポイント増加、織物業・商業が+15ポイント増加、サービス業は+29ポイント増加と改善。一方で、織物業は-17ポイント減少、工業・建設業が-5ポイント減少しており、産業全体では-3ポイントで横ばい状態となっている。中東情勢の不安定感が影響し材料の確保難やコストが上昇しているため、全業種ともに採算は悪化傾向にあり、当面は価格転嫁に悩む状況が続くものとみられ、あらゆる動向を注視していく必要がある。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

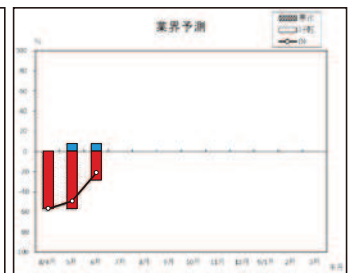
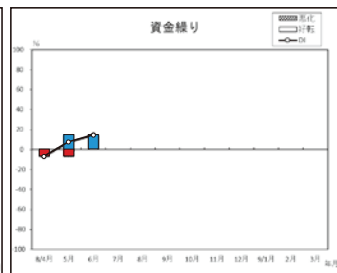
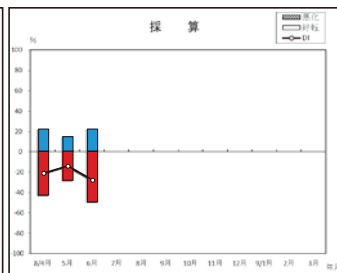
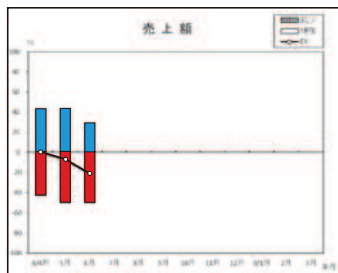
織物業 売上・採算・資金繰りが軒並み悪化するも、一部に急改善の兆しが混在する織物業

織物業の4～6月は、売上・採算・資金繰り・業界予測が軒並み悪化し、力強さを欠く展開となった。前四半期との比較では、売上DIが-16.6ポイント悪化し、採算DIも-14.3ポイント悪化している。予測DIも-4.7ポイント悪化し深刻な水準まで落ち込んでいる。経営支援員からは、悪化基調が大勢だが一部に急改善の動きがあり、6月に売上増加と業界予測の好転が同時にみられた事業所も一部あるとの報告があった。



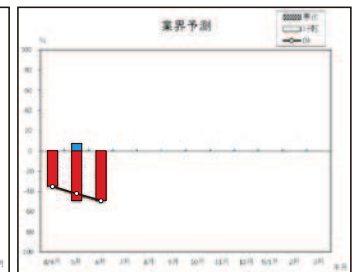
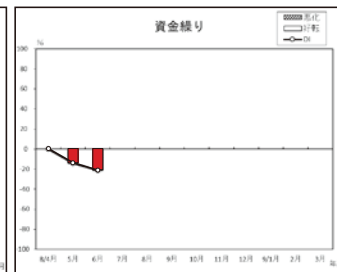
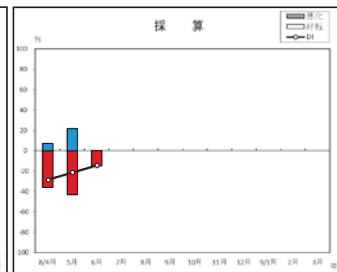
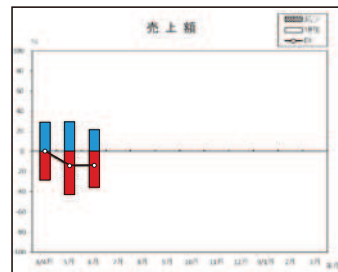
機械金属業 資金繰りは大きく好転も、コスト上昇による採算悪化で二極化が進む機械金属業

機械金属業の4～6月は、売上が横ばいで推移する一方、資金繰りは大きく好転、採算は悪化し明暗が分かれた。前四半期との比較では、資金繰りDIが+26.2ポイント改善、予測DIも+7.2ポイント改善したが、採算DIは-9.5ポイント悪化している。経営支援員からは、中東情勢の影響による放電加工油や潤滑油の不足が続く、コスト上昇への対応も迫られている。好調と悪化が明確に二極化しているとの報告があった。



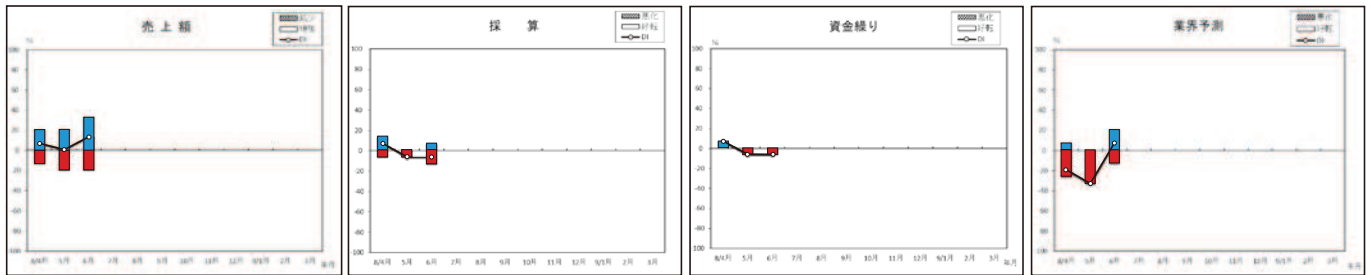
工業 前期までの堅調から一転し、採算・業況が急激な悪化に転じて厳しさが増している工業

工業の4～6月は、前期まで堅調だった採算・予測DIが一転して急速に悪化し、厳しさが増した。前四半期との比較では、採算DIが-23.8ポイント悪化し、予測DIも-35.8ポイントの急落となり、急変が目立つ。経営支援員からは、好転を維持する事業所がある一方、6か月連続で採算・予測とも悪化している事業所がある。自動車整備は堅調に推移しているが、一部業種では長期悪化がみられるとの報告があった。



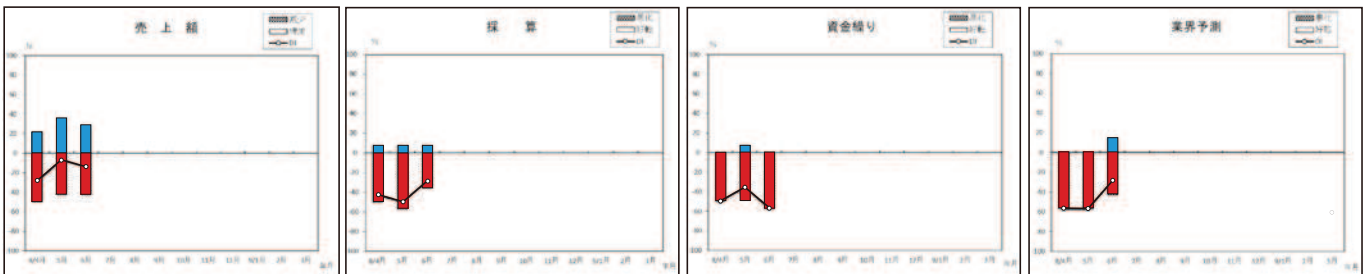
建設業 資材価格高騰で採算悪化に悩みつつも、足元では横ばいに落ち着きをみせる建設業

建設業の4～6月は、売上のプラス水準を保ちつつも縮小傾向が続き、採算・資金繰り・業界予測も軒並み弱含みとなった。前四半期との比較では、売上DIが－4.4ポイント悪化、予測DIも－4.4ポイント悪化となり、慎重な動きが続いている。経営支援員からは、建設資材価格の大幅な上昇で採算が見込みにくいなか、5～6月にかけ横ばいへ落ち着きつつある。好転基調を維持する事業所も複数あるとの報告があった。



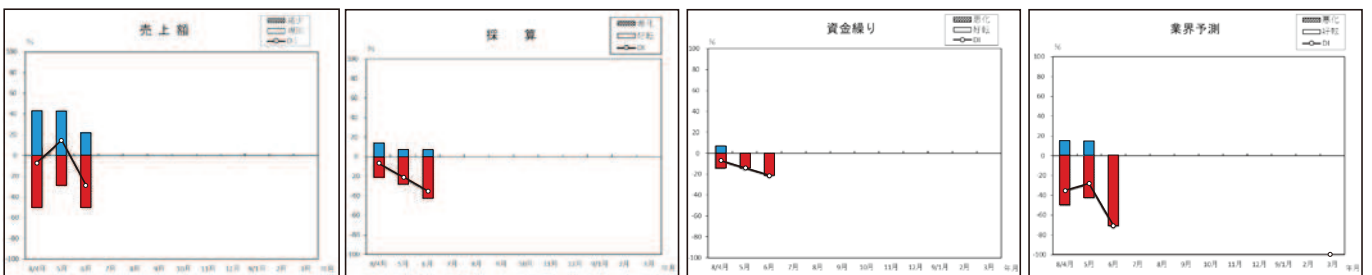
商業 売上の持ち直しをみせるが、仕入コスト増と価格転嫁の難しさに直面している商業

商業の4～6月は、売上にやや持ち直しの動きがみられたものの、採算は低水準で高止まり、資金繰りの厳しさが一段と深まった。前四半期との比較では、売上DIが+16.6ポイント改善したが、資金繰りDIは－4.7ポイント悪化している。経営支援員からは、大半が悪化基調で改善の兆しが乏しい。仕入コストの増加の度に価格転嫁を進めれば客離れが懸念され、消費行動・購買意欲の見極めが難しいとの報告があった。



観光業 万博影響減からの回復で売上は改善するも、コスト増と先行き不安が続く観光業

観光業の4～6月は、売上にやや持ち直しがみられる一方、採算・資金繰り・業界予測の悪化が続き、前期好調からの反動が大きい。前四半期との比較では、売上DIが+4.8ポイント改善したが、予測DIは－9.8ポイント悪化している。経営支援員からは、昨年の万博による客足減少と比べると全体的に改善しているが、コストは確実に上がっているため経営状況は厳しく、今後の予測も悪化傾向にあるとの報告があった。



サービス業 GWの活況で売上や業況は大幅改善するも、物価高と平日集客に苦戦するサービス業

サービス業の4～6月は、売上・資金繰り・業況がそろって明確に持ち直しの動きをみせ、7業種中で最も改善が目立つ。前四半期との比較では、売上DIが+28.9ポイント改善し、予測DIも+24.5ポイント改善したが、採算DIはやや悪化している。経営支援員からは、GWは一時的に活気があったが、その後は新規客も少なく、特に平日の店舗集客に苦戦し、物価高騰の影響が大きくなってきているとの報告があった。

